

第17回日本病理学会カンファレンス2021新潟 開催報告

2021年8月21日

第17回世話人 新潟大学 近藤英作

第17回日本病理学会カンファレンスは、テーマを“「患者医療への道」を歩む診断・医療研究の最前線”として2021年8月21日正午～翌22日午前にわたり開催されました。8月時点も拡大するコロナウイルスの社会的な蔓延状況に鑑みて、ウェブ配信（Zoom 形式）による会のすべての内容の運営が行われたことは当カンファレンス初の試みとなり、滞りなく企画が実施できたことはまことに幸いでした。本カンファレンス最終視聴者（参加者数）は計109名（所属別：大学71名、病院36名、企業1名、その他1名）で第一日目参加者総計91名、第二日目参加者総計89名でした。コロナ禍の状況の中大変な時期であるにもかかわらず、多数の方々に参加視聴を賜りましたことをまずは厚く御礼申し上げます。

1. 開催の主旨と概要

テーマを上記として掲げた意味は、病理学分野を含み広く我が国の医学研究者が取り組む研究活動の本義が皆例外なく、患者医療への将来的な貢献を目指していることを今一度思い起こし日々の研究活動の真の意義を心に留めて励んでいただきたいという意

味も込めてのことでした。レクチャーを依頼した方々は、特にこの点において実績のある研究者であり、基礎から臨床応用への一貫した研究姿勢を貫きつつ、医療現場の展開へ直結する成果を創出しながら最前線の先端研究を行っている実力者として選ばせていただきました。今回の企画には特別に、これらの講師の先生方に病理学会の若手研究者の皆様に向けた研究の発想と立ち上げ、進め方、問題点の見つめ方、自らの研究姿勢や方針、また励ましのメッセージなどをワンポイントアドバイスとして講演の最後にいただくことをお願いし、研究に対するモチベーションあるいは研究上の何某かの参考に役立てていただけたことと期待しています。具体的内容として、依頼講演については全10題（分子機構からの展開；3題、システム解析学からの展開；2題、病理学と臨床病態からの展開；2題、バイオテクノロジーからの展開；3題、）および教育講演1題でした。ポスター発表は計27題で、そのうち審査員により選考された最優秀演題賞1題と優秀演題賞3題の計4題についてはレクチャーセッション後に受賞演題として受賞者本人による口演をいただきました。以下が当日のプログラムです。

※なお、ポスター発表については会期終了後の8月末までオンデマンド視聴を提供した。

プログラム

8月20日(金)

開会 Web(Zoom)開催

12:00-12:05 開会のご挨拶 北川昌伸先生（日本病理学会理事長）

12:05-12:10 イン트로ダクション 世話人 近藤英作（新潟大学）

～ セッション ～ （講演者の先生の敬称略）

【分子機構からの展開】座長：小田義直先生（九州大学）

12:10-12:50 レクチャー1

「がん細胞の維持に関わる長鎖非翻訳 RNA の解析と治療への応用」近藤豊 名古屋大学

12:50-13:30 レクチャー2

「神経発生学と病理学の境界領域－Olig 転写因子の同定と解析－」竹林宏秀 新潟大学

13:30-14:10 レクチャー3

「新局面を迎えるオートファジー研究」小松雅明 順天堂大学

14:10-14:25  休憩（15 分）

【システム解析学からの展開】座長：鳥越俊彦先生（札幌医科大学）

14:25-15:05 レクチャー4「次世代定量プロテオミクスによるがん代謝の実体解明への挑戦」松本雅記 新潟大学

15:05-15:45 レクチャー5

「バイオインフォマティクスとがんゲノム医療」奥田修二郎 新潟大学

15:45-16:00  休憩（15 分）

【病理学と臨床病態からの総合的展開】座長：清川悦子先生（金沢医科大学）

16:00-16:40 レクチャー6「病理標本から伺える疾患メカニズム」森井英一 大阪大学

16:40-17:20 レクチャー7

「悪性リンパ腫におけるゲノム解析の成果および診断、治療応用への可能性」

加留部謙之輔 琉球大学

第一日目終了 （2 日目案内のアナウンス：新潟大 近藤）

8 月 21 日（土）

第 2 日目開始前のアナウンス：8:25-8:30：新潟大 近藤

【教育講演】 座長：古川徹先生（東北大学）

8:30-8:50 「論文作成・校正のポイントについて」笹野公伸 東北大学

8:50-9:00  休憩（10 分）

～ セッション ～

【バイオテクノロジーからの展開】 座長：森井英一先生（大阪大学）

9:00-9:40 レクチャー8

「治療標的としての腫瘍内低酸素環境」近藤科江 東京工業大学

9:40-10:20 レクチャー9

「テラノスティクスとフォトイムノセラピー」小川美香子 北海道大学

10:20-11:00 レクチャー10

「がんホーミングペプチドと DDS 創薬」近藤英作 新潟大学

11:00-11:15 ☕ 休憩（15 分）

【優秀ポスター演題表彰】

委員長 豊國伸哉先生（名古屋大学）

11:15～11:20 優秀ポスター賞発表（最優秀演題 1 題、優秀演題 3 題 計 4 題）

【優秀演題賞講演】

座長：谷野美智枝先生（旭川医科大学）

11:20-11:35 優秀演題 1（発表 10 分、質疑応答 5 分）

11:35-11:50 優秀演題 2（発表 10 分、質疑応答 5 分）

11:50-12:05 優秀演題 3（発表 10 分、質疑応答 5 分）

12:05-12:20 最優秀演題（発表 10 分、質疑応答 5 分）

※最優秀演題賞および優秀演題賞受賞者：

最優秀賞（1 名）：菊池泰弘（札幌医科大学病理学第一講座）

優秀賞（3 名）：矢野浩夢（熊本大学細胞病理学講座）、三ツ井彩花（新潟大学分子病理学講座）、藤島京祐（北海道大学医学部医学科 5 年）

【講評および閉会のご挨拶】

12:20-12:25 豊國伸哉先生（日本病理学会研究推進委員会委員長）

第17回 日本病理学会カンファレンス
会期 2020年8月21日(土)・22日(日)
会場 新潟大学医学部有任記念館（新潟県新潟市）
世話人 近藤 英作 新潟大学 大学院医学総合研究科 分子細胞病理学分野

「患者医療への道」を歩む
診断・医療研究の最前線

分子細胞からの話題
がん細胞の維持に関わる長鎖非翻訳 RNA の解析と治療への応用
近藤 英 / 名古屋大学
神経発生学と病理学の境界領域
—Olig 転写因子の同定と解析—
竹林 浩秀 / 新潟大学
新局面を拓くオートファジー研究
小松 昌明 / 順天堂大学

システム解析からの話題
次世代定量化プロテオミクスによる
がん代謝の実体解明への挑戦
松本 雅紀 / 新潟大学
バイオインフォマティクスとがんゲノム医療
奥田 修二郎 / 新潟大学

臨床医療
論文作成・校正のポイントについて
世野 公伸 / 東北大学
バイオテクノロジーからの話題
腫瘍内低酸素誘導因子
HIF 活性化細胞の可視化と攻撃
近藤 利江 / 東京工業大学
テラノスティクスとフォトイムノセラピー
小川 美香子 / 北海道大学
がんホーミングベクトルと DDS 創薬
近藤 英作 / 新潟大学

臨床基本と基礎研究からの話題
病理標本から得る疾患メカニズム
森井 英一 / 大阪大学
悪性リンパ腫におけるゲノム解析の成果
および診断・治療応用への可能性
加留部 隆之輔 / 琉球大学

主 催 日本病理学会研究推進委員会
事務局 新潟大学 大学院医学総合研究科 分子細胞病理学分野
〒951-8510 新潟市中央区旭町通一番町 757 TEL: 025-227-2103 FAX: 025-227-0761
<https://17th.jp.academy/>

2. 参加状況と参加者の内訳について

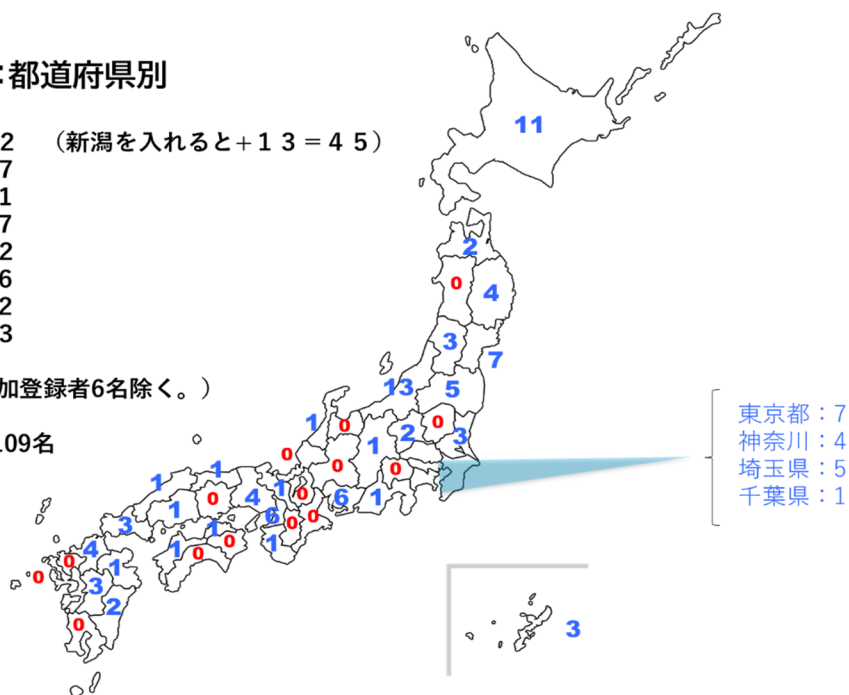
- ・参加者109名の具体的な内訳については以下のとおりでした。

事前登録参加者：都道府県別

北海道・東北地区：32 （新潟を入れると+13=45）
 首都圏：17
 北陸：1
 中部：7
 近畿：12
 中国：6
 四国：2
 九州・沖縄：13

計：103（会期中追加登録者6名除く。）

* 最終参加視聴者は計109名



- ・参加視聴者の年齢構成・性別など

（年齢構成）36歳以上：92名、35歳以下：17名、

（性別構成）男性：85名、女性：24名

（会員区分）正会員：96名、非会員：12名、功労会員：1名

- ・会期中の視聴者数の動向など（入室・退出あり。再入室による重複は除外。）

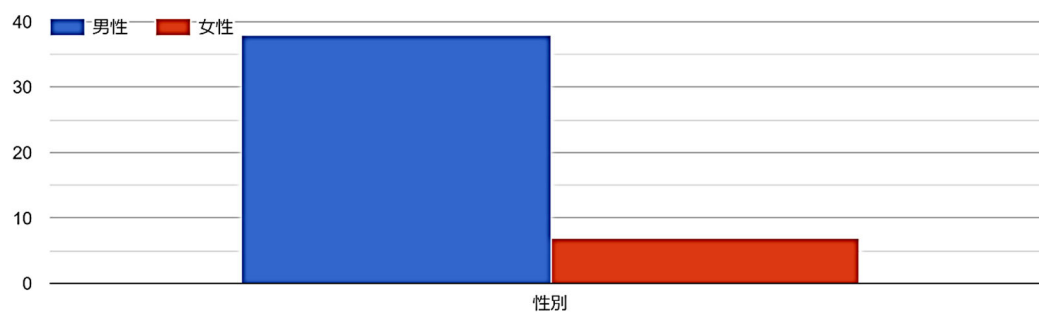
	入室者数	パネリスト参加数	参加視聴者数	全セッション時間の50%以上の時間を視聴した参加者
1日目	91	12	85	60%
2日目	89	12	83	71%

※会期中2日間いずれも退出者が少なく、特に2日目は1日目以上に視聴が継続した。

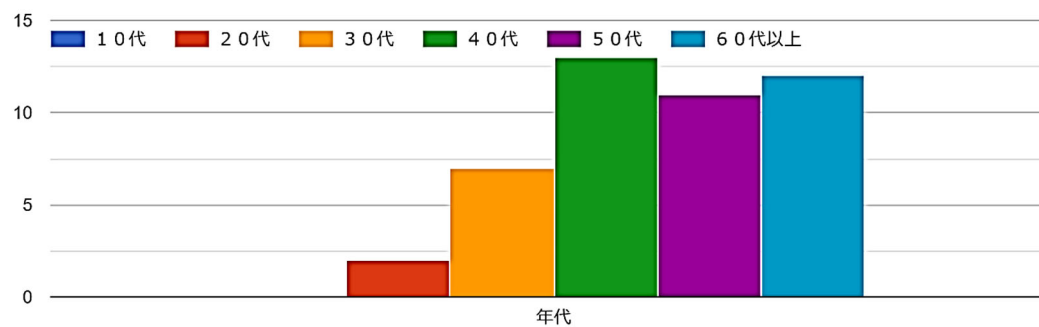
3. アンケート集計結果

会期終了後、45名の方からアンケート回答を得てその結果を分析した。

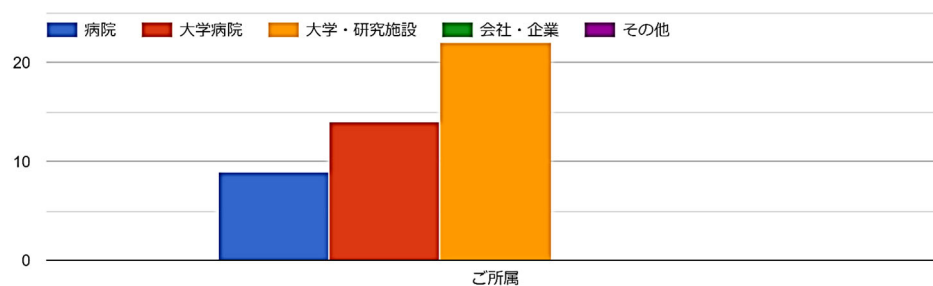
回答者情報：性別



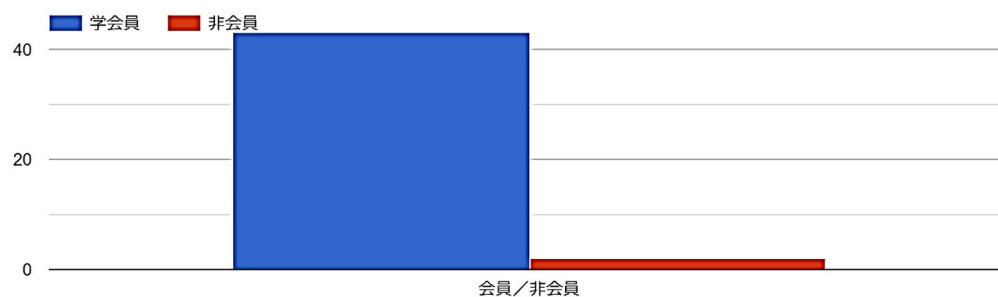
回答者情報：年齢（年代）



回答者情報：ご所属

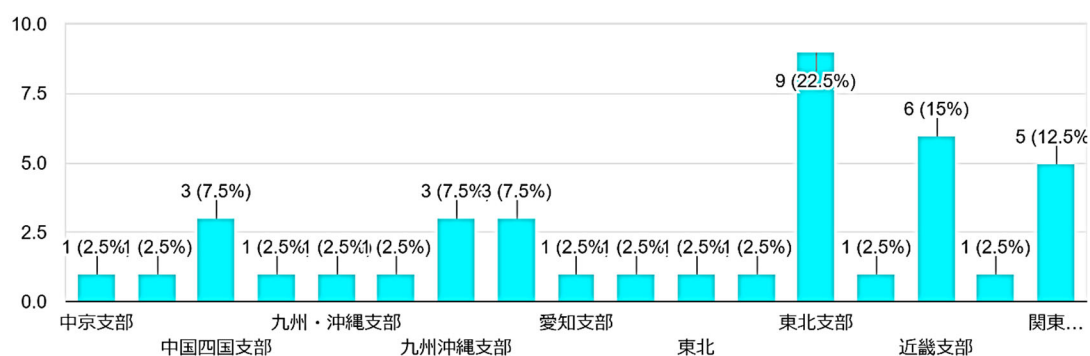


あなたは日本病理学会会員ですか

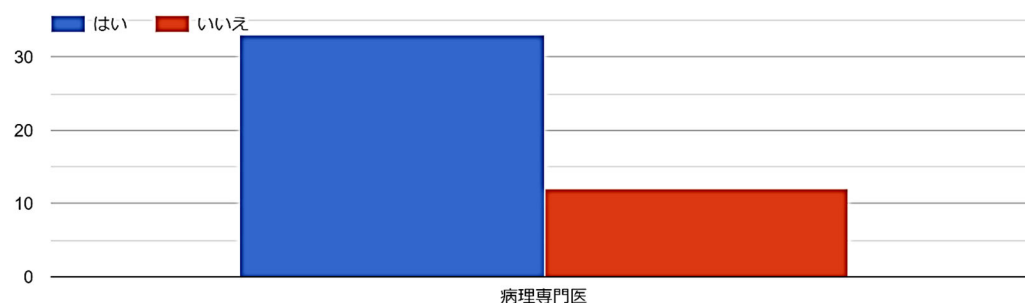


日本病理学会会員の方は、下記に支部名をご記入ください

40 件の回答

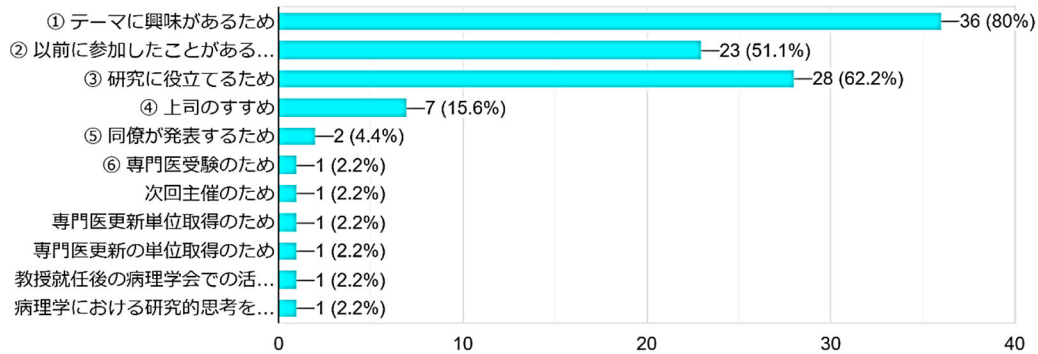


あなたは病理専門医ですか

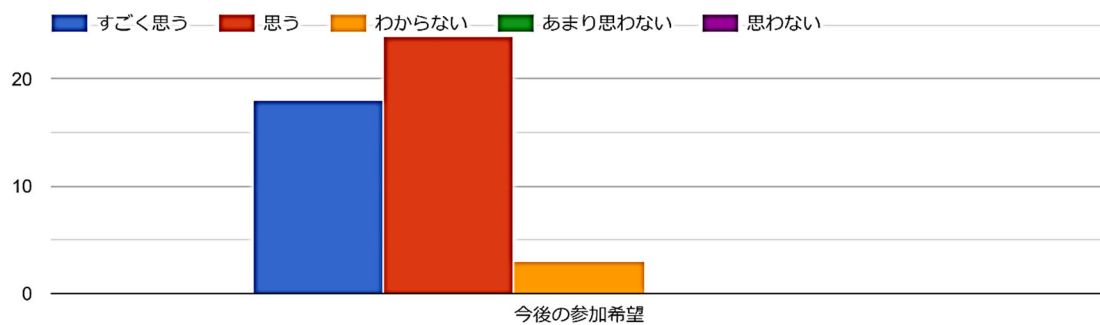


今回、本カンファレンスへ参加された動機について

45 件の回答



今後も日本病理学会カンファレンスに参加したいですか



○ 今回の病理学会カンファレンスについての感想

(計 24 件の回答あり。一部を以下に紹介します。)

・多彩な内容の先進的研究で、若手への助言もあり、面白く視聴できた。

(大学・研究施設)

・最先端の研究に触れられて大変良かったです。オンラインの利点がよく生かされてい

たと思います。(大学・研究施設)

- ・幅広い癌の研究が拝聴できてとても有意義でした。(大学病院)
 - ・充実した内容だったと思います。(病院)
 - ・大変勉強になりました。(病院)
 - ・二日目が、分子病理専門医講習会とかぶり、また、オンデマンドもなかったことが参加者が少なかった理由の一つだと思います。(病院)
- (註：ポスター演題はオンデマンド視聴可能とした。レクチャーは著作権の保護に配慮したため、オンデマンド視聴を行わなかった。)

○ 今後、病理学会カンファレンスにどのようなテーマを希望されますか？(一部紹介)

- ・遺伝子と形態の融合
- ・病理学研究に役立つテーマ
- ・先進的な病理形態分析技術の研究 (AI や in silico 解析を除く基礎技術)
- ・病理組織での研究を補完する分子生物学
- ・癌の増殖や進展に関わる分子機構について
- ・AI、ゲノムと病理診断
- ・遺伝子研究関連
- ・胆・肝・膵、呼吸器系、など

4. 今回のカンファレンスの総括と今後の課題

本第17回カンファレンス2021新潟は、準備段階から東京オリンピック開催の移動や混乱を避けたオリンピック終了後が適切ではないかと考え、会期を8月下旬に設定していました。開催形式については全国的なコロナの感染状況によるところが大きいと考え、必要準備期間を確保するぎりぎりまで待ちましたが、感染拡大が不規則な周期を持ちかつ不可測な変動が起きるために非常に予測が難しく、結果として安全・安心に配慮して現地開催やハイブリッド形式を止め、カンファレンス初めてのウェブ配信を決断しました。結果的には東京オリンピック開催中の7月下旬から8月にかけてデルタ株による第5波と言われる感染ピークが全国的に襲来したため、正しい選択にはなったのですが、本会本来の主旨である「若手病理学研究者や学生が先輩研究者である講師陣や病理学講座教員と直接に触れ合い会話や気兼ねのない討論ができる貴重な機会」の確保はかなわなかったことがまことに残念です。また、上記の理由で会期を選定しましたが、他の日本病理学会主催の講習会などの行事が立て込む時期に当たり、他の講習会日程との調整が十分でなかった点が主催者として反省されます。さらに、初めてのウェブ形式による開催となりましたが、参加登録をいただいた視聴者の一部にご指摘があったように、オンデマンド配信を可能としたのはポスター発表演題のみであり、機会を逃した視聴者へのレクチャーの再視聴の機会を設定しなかった点があります。この点については実は著作権の保護の問題を考慮した上での選択で

したが（無論、ポスター演題についても著作権保護は同等に重要です）、視聴者の要望と講演者の権利保護の両者を適切にかなえる方策が必要と考えています。今回は講演開始に当たり上記著作権の保護への配慮を念のため説明させていただきましたが、参加者の皆様の良識ある配慮・ご協力を得たと考えており、心から皆様に御礼申し上げます。

5. 謝辞

本会開催に当たりましては 2 度の演題参加登録締め切りの延長を行いながら皆様のご参加をお待ちいたしました。登録の出足は例年より早いようでしたが、途中で今一つ鈍りかけていたところ、参加者、演題応募ともに全国各地から病理関係の先生方の温かいご支援・ご協力を賜りましたことは私たちにとって忘れえない感謝となりました。お陰様で 100 名を超える参加者と、27 題の若手を含めた素晴らしい研究演題、1 年の延期を行ったにもかかわらず依頼をご快諾下さった卓越した研究を進めている各領域講演者の方々の発表についての活発な質疑応答、また事後アンケートでの好評などをいただきましたことをあらためて私たち主催側一同、心から御礼申し上げる次第です。なお、本カンファレンスの準備・運営にあたりましては、ユニット・エムエスイーの美和様、(株) 学会サービスの近藤様に大変行き届いたサポートを賜り、あわせてこの場を借りて深謝いたします。